

『シリーズ 2 1 世紀の農学』

動物・微生物の遺伝子工学研究

日本農学会編

出版：養賢堂

組換え DNA 技術やクローン技術などを中心とした遺伝子工学は、人類の食糧確保、健康増進や地球環境の改善などに幅広く役立つ画期的なテクノロジーを開拓している一方で、社会の理解が十分に得られていない分野です。研究者の間でも、遺伝子工学研究の多岐にわたる成果に関して最新の情報を共有することは容易ではありません。

日本農学会では、微生物・動物・昆虫の遺伝子工学の専門家が、それぞれ遺伝子組換え技術やクローン技術などが新しい生物を生産することを可能にした実例とその背景の理論を紹介するとともに、それら技術の将来展望や、遺伝子工学技術を使って作られる微生物や動物の安全性や社会的な諸問題についての討論を通じて農学や関連領域に携わる研究者・学生等に遺伝子工学の可能性と課題を伝え、議論や研究を進展させるための機会とすることを目的としたシンポジウムを平成 18 年 10 月 14 日に開催しました。

本書は、その成果の概要を詳細にわかりやすくまとめ、充実した内容の 1 冊となっています。

遺伝子工学の研究者はもとより、学生や一般の方々など遺伝子工学研究に関心のある方にもお奨めします。



体裁 A5 判 157 ページ

定価 2,000 円

主な収載項目

- 第 1 章 コンビナトリアル生合成によるフラボノイドの発酵生産（堀之内末治、他著）
- 第 2 章 難分解性物質の微生物分解と組換え微生物の環境浄化への利用（福田雅夫著）
- 第 3 章 微生物における遺伝子組換え研究の意義と直面する問題（五十君静信著）
- 第 4 章 遺伝子組換えカイコ作出の開発と利用（田村俊樹著）
- 第 5 章 単離生殖細胞からの魚類個体の作出：
細胞を介した遺伝子導入技法の樹立をめざして（吉崎悟朗、他著）
- 第 6 章 エピジェネティクス、新たな動物遺伝子工学のパラダイム（塩田邦郎、他著）
- 第 7 章 デザイナー・ピッグの基礎医学研究への応用（長嶋比呂志、他著）

日本農学会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

TEL 03-5842-2287

FAX 03-5842-2237

E-mail : office@ajass.jp

URL : <http://www.ajass.jp/>